

# 子育てフードパントリー

-----たんぼと畑と台所を土台とした-----

2020.12～2021.11

## 事業報告書



NPO 法人 みんなで子育てドロップス

休眠預金等活用助成事業

(新型コロナウイルス対応緊急支援助成)



## ○はじめに

### みんなで子育てドロップスの紹介

#### 団体の成り立ち

子育てのあり方を考え良くしていこうと集まって、アイディアをだし実現させる NPO。ママたちがほっとひと息でき、笑顔になって家へ帰れる場所を提供したくて ”つどいの広場”を開設したのが始まり。現在は、ぐるぐるリサイクルなど楽しく便利なイベントや講座、会員の相互援助活動で子育てを支えるファミリーサポートセンター事業、居場所を大切にした学習支援事業など、様々な子育て支援の活動をしている。

#### 団体の概要・事業

会員の相互援助活動で子育てを支える『ファミリーサポートセンター事業』の会員は約 800 名。数年前から『ひとり親の託児事業』『障害児の移動支援事業』を市から受託し緊急性や配慮が必要な福祉事業も行っている。その他にも、独自事業として『居場所的学習支援事業』を行っている。

行政のサービスを活用しつつ、行政とは少し距離を置く、子育て相談支援の NPO 団体として長年活動している。 ドロップスホームページ <http://drops.enat.jp/>

## ○実施した活動内容

毎月第 3 木曜日の夕方 6 時半から、食料品の配布を行った（写真 1）。

対象は子育て中の、シングル家庭・生活困窮家庭・社会的孤立家庭等とし、利用者の募集は、月 1 回発行のする『パントリー便り』（写真 2）とホームページで行った。配布個所は、市内の学童保育、恵那市関係課（農政課・子育て支援課・福祉課等）や、恵那市社会福祉協議会、他市町村の関係窓口等 45 か所（10 月末現在）に直接または郵送で配布した。

パントリー便りから公式 LINE に登録を薦め、毎月の利用の案内や細かい個人対応などはラインで行った。利用者のほとんどが公式 LINE に登録し、10 月末の登録利用者数は目標値を超え 75 人となった。



当日の配布時の様子 写真 1

毎月発行のパントリー便り 写真2



YouTube 料理教室の撮影中 写真3

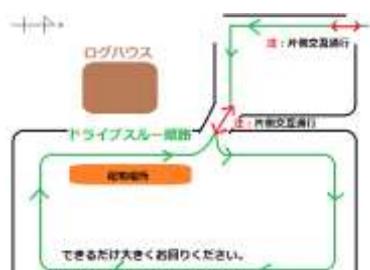
室を行うことに変更した（写真3）。

2021年9月の岐阜県の緊急事態宣言下でのパントリーはフードドライブの形で行うこととした（車の窓からの受け渡し 図1）。幸い事務所に隣接する河川敷に車が入ることができる広いスペースがあり、そこで行うことができた。また、10月からは、登録会員に限り、学校や園の休みの影響を受けた家庭には個別に臨時の食料援助をすることにし、11月、恵那の緊急事態宣言時には2件の家庭にお配りすることができた。

事務所の庭で行う予定の「ちび農園」は建物の陰で日照不足、秋冬は作物が育たなかった。しかし、近くの農家さんから無償で畠（30坪）をお借りすることができ、野菜の植え付けや枝豆などの収穫等、農業の体験イベントを行うことができた。現在も畠にはネギや大根が立派に育っており、時々緊急ラインでお手伝いを募集して草取りや収穫を行っている（写真4）。

提供する食品は購入する予定だったが、スタート時点から恵那NEW FARMERS 交流会のメンバーの農家の協力を得ることができた事やフードロスやフードバンク等の事業者とのつながりができた事で、徐々に寄付の食品割合が増え、寄付でかなりの部分を貢えるようになり、参加者数が増えても対応できるようになった。

コロナ禍の影響で残念ながら、食料を調理し（=台所）配布することは実践できなかった。予定では、寄付された食品で手がかかるようなものを調理して配布することを計画していたが、感染拡大により県の保健所より注意喚起もあり難しい状況になった。それに代わるものとしてYouTubeで配信する料理教



ドライブスルーの説明 図1

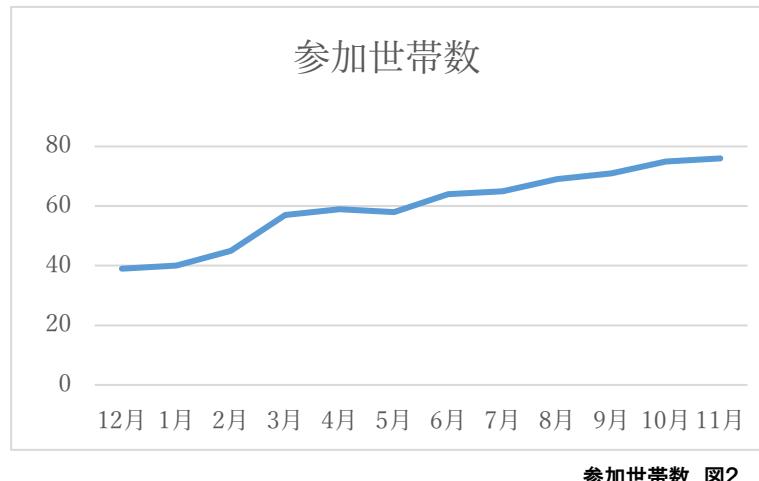


畠の様子 写真4

## ○達成状況・成果について

### ①月別参加世帯数

月別世帯数は図2、表1で示す通り、徐々に増え、10月21日参加の世帯数は75世帯、延べ世帯数は717世帯となった。



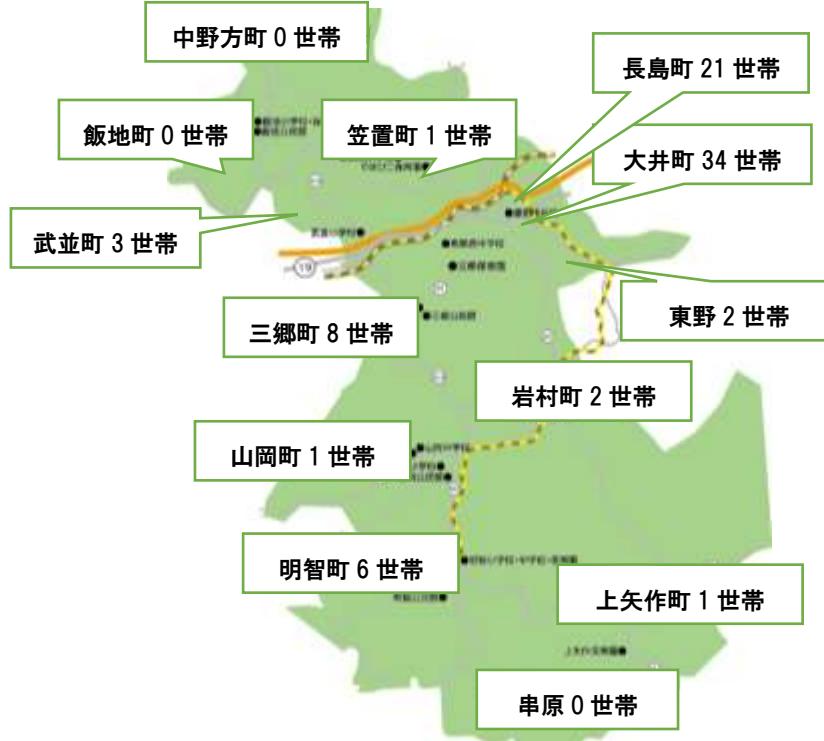
回	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
配布月日	12月 26日	1月 21日	2月 18日	3月 18日	4月 15日	5月 20日	6月 17日	7月 15日	8月 19日	9月 16日	10月 21日
世帯者数	39	40	45	57	59	58	64	65	69	71	75

### ②参加者の地域別世帯数

参加世帯数 表1

大井町	長島町	上矢作町	串原	三郷町※	武並町	中野方町	飯地町	笠置町	明智町※	山岡町	岩村町	東野	他市	合計
34	21	1		8	3			1	6	1	2	2	2	81

地域別参加世帯数(11月末) 表2



11月末の登録数で参加世帯数を地域別にみると、大井・長島など恵那中心部に利用者が偏っている。僻地に食料配布が十分にはできていないことが読み取れる（地域別参加世帯数(11月末) 表2）（地域別参加世帯数(11月末) 図3）。

三郷町、明智町（表2の※印）は、地域の方や学童保育などの協力により現地で配布できている。

### ③イベント等その他の活動

活動名	月日	参加者数
しめ縄づくり	12月13日	8人
YouTube 料理教室『カップケーキ』	2月14日	63再生
ジャガイモ植え	3月14日	3人
YouTube 料理教室『お好み焼き』	3月21日	28再生
イチゴ農家さんのお手伝い	4月3日	8人
中型トマト苗の配布（お渡しのみ）	7月15日	17人
利用者アンケート	7月29日	64人
枝豆の収穫と草引き	10月17日	7人
焼き芋とお芋の絵本読み聞かせ	11月14日	7人
リンゴ狩り	11月28日	27人

イベント参加者数(11月末まで) 表3



イベント等その他の活動 写真5

#### ④参加者からの聞き取り

- ・コロナでダブルワークができなくなったので、大学生の子への仕送りが厳しくなった。
- ・コロナで仕事が安定しない。食べ盛りの4人の子どもがいるのでありがたい。
- ・恵那産焼き芋の冷凍がおいしかった。
- ・見た目の悪い野菜もおいしかった。フードロスを考えたい。
- ・食料配布の時のスタッフの声掛けが温かくありがたかった。
- ・果物やケーキを普段は買えないで、子供たちが喜んだ。
- ・季節の行事に使える食品がうれしかった。
- ・牛丼の日（パントリーの日）が月1回の贅沢な楽しみになっている。
- ・お米がおいしい。
- ・先月はたくさんの食料 ありがとうございました。急に寒くなつてスタッフのみなさんは 大変だなあと思ったら、「今日はそんなに寒くなくてよかったです～」と笑顔で言ってらっしゃる姿を見ていいろいろと大変なこともあるのに、楽しんでやってくださっているんだなあ。と、ありがとうございました。素敵でした。
- ・イチゴのお手伝い、貴重な経験をさせていただきありがとうございました。
- ・食料品ありがとうございました。こんなにいっぱいあると思っていなかつたのでビックリです！
- ・たくさんの方々にご協力頂き、食料を配布頂けるとの事で、とても感謝しています。
- ・毎日いろいろ頂きとても助かっています。



## ⑤たくさんの方々の協力や寄付

たくさんの方々や団体に、子育てパントリーの存在を知られるようになり、予想を超えた食品の寄付が得られるようになった。参加人数も多くなったが、それよりもはるかに多くの寄付をいただけるようになり、重量的には倍になった(一人当たりの購入金額・食品重量の2月と10月の変化 表4)。

一人当たりの購入金額 (円)	
2月	3456
10月	434

一人当たりの食品重量 (kg)	
2月	9.4
10月	15.7

参加人数 (人)	
2月	45
10月	75

一人当たりの購入金額・食品重量の2月と10月の変化 表4

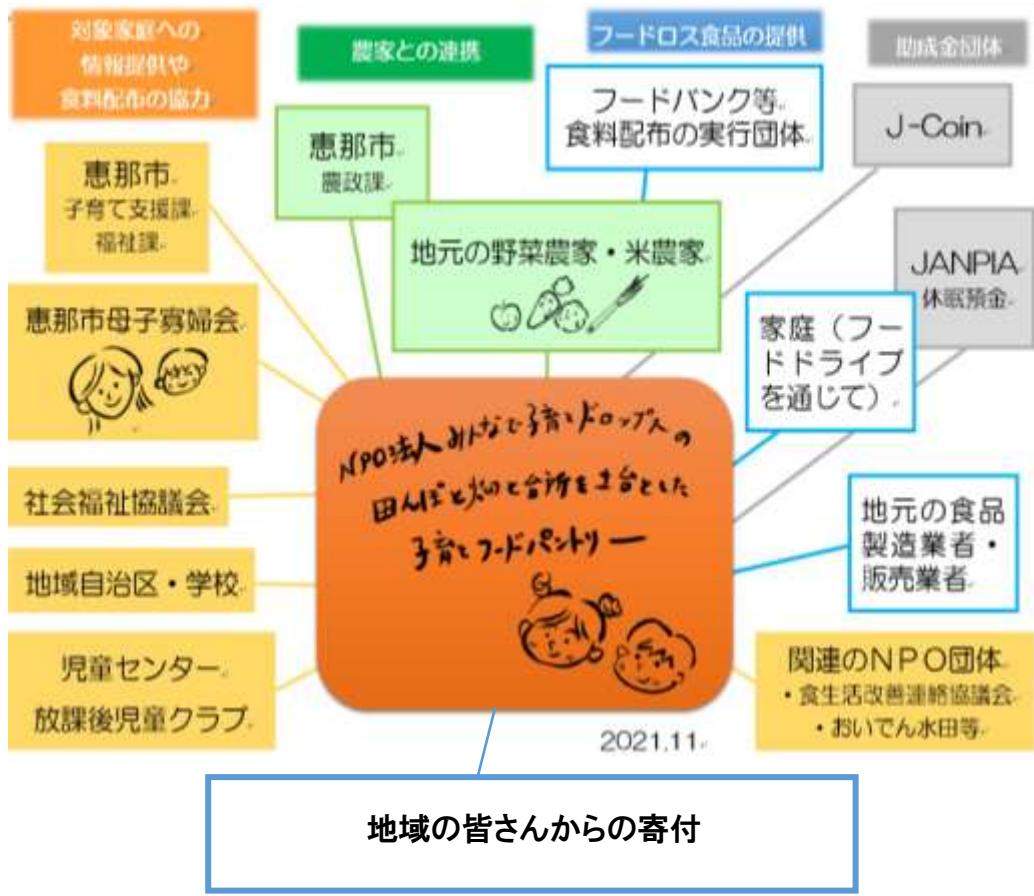
※寄付していただいた食品はホームページに詳しく紹介させていただいています。

<https://dropsfoodpantry.wixsite.com/website>

※寄付していただいた主な団体・企業

大井自治区の皆さん、日本非常食推進機構、社会福祉協議会、フードバンクぎふ、フードバンクあいち、ゴーバル、恵那 NEW FARMERS 交流会の皆さん、りんごハウス、吉野家、コープぎふのロス食品、ファミリーマートのフードドライブでいただいた地域の方々からの寄付食品等。

## フードパントリー関係図



フードパントリー関係図 図4

## ○課題

### ① 提供者の開拓

チラシや口コミでパントリー参加者は順調に増えているので、食料確保のため今以上に、地元の農産物の規格外野菜提供者や食品ロスなど提供していただける地元企業を増やす必要がある。

寄付食料の調達や保管場所のため、協力者の継続依頼と新規開拓を行っていく。

### ② 保管場所の開拓

食材ごとの保管場所の確保が必要（春～夏場の米の冷蔵庫保管は必須）。

### ③ 幅広い困窮家庭への周知

子育てフードパントリー便り（毎月発行・配布）からQRコードによるLINE登録を呼びかけたが、今までの配布場所に便りを配るという方法では、利用者家庭の年齢層が小学生から中学生にとどまるところになる。乳幼児から高校生（障がいの有無によっては20歳くらいまで）の幅広い世代をフードパントリーの利用者と捉えて広報を行っていく方法を考える。

### ④ 地域の偏りの解決

大井・長島など中心部に利用者が偏っている。僻地に食料配布が十分にはできていない。僻地のNPOと連携し、食糧支援に協力していただくよう依頼していく。

### ⑤ 支援する人への補償（有給で働く人の必要性）

最低限、食料のチェックや記録、保管、袋詰め作業と当日の配布作業の入件費が必要。

## ○今後の展開

### 様々な人たちが世代を超えて、子育てを支えた

恵那市は田んぼや畠に恵まれた自然豊かな田舎。食べ物に困る子育て家庭なんて無いと思っていた人たちが大多数だった。しかし、私たちがこの事業をスタートさせたら、想像を超えるスピードで利用者が増え広がっていった。そしてその話は地域の方々にも広がり、支援者が増えていった。「使わない畠を貸そうか」という話、「コロナのせいで、卸す予定の商品が返品され余っているので…」という話、「コロナ禍で、息子が来なくなり米が余っているので…」という話、「なすが取れすぎたでもらってもらえないかね…」とひょっこり事務所のドアをたたくおじさんの話、寄付の野菜を漬物にしてはと手伝いをしてくれるおばさんの話。こうして、たくさんの方々の寄付により、自己資金だけではとうてい行えない大きな事業を実現することができた。また、今回の事業で、今まで当法人はファミリーサポート事業で、子育て家庭だけに認知されがちだったが、いろいろな年齢層の方たちにも知ってもらうことができるようになった。

### 『いきる』を支えあう

今後は、フードパントリーの継続を一步進め、『家庭とつながる、関係性を築く、支えになる』という相談支援事業の受託を考えている。これまでも、利用者は、生活の状況や困っている内容、収入のことなどをパントリー担当者に相談することがあった。パントリー利用者に限らず、子育て世代の貧困や孤立の解消に努めるため、フードパントリーで培った地域支援団体と連携し、セーフティーネットの構築の一助となるようなNPO法人にしていきたい。